

FAX 03-5543-1930

郵送先: 〒104-0042 東京都中央区入船3-1-13 エーユー入船ビル
 株式会社イトーキ Ud&Eco研究所 行

皆様のご意見・ご感想をお寄せください。

「イトーキ環境報告書2004」をご覧いただきまして、ありがとうございました。
 皆様の貴重なご意見・ご感想を今後の環境保全活動や環境報告書作成の参考とさせていただきます。
 お手数ですが、このページをコピーしてご記入の上、
 FAXまたは郵便にてお送り願います。

●アンケート

Q1 本報告書をお読みになって、どのようにお感じになりましたか。
 わかりやすい (その理由を具体的にお書きください。))
 普通
 わかりにくい

Q2 本報告書の記載内容について、どのようにお感じになりましたか。
 充実している (それはどのような点ですか、具体的にお書きください。))
 普通
 不足している

Q3 当社の環境保全活動について、どのようにお感じになりましたか。
 評価できる (今後、当社に期待する環境保全活動に対するご要望があればご記入ください。))
 普通
 評価できない

Q4 どのような内容に関心をもたれましたか。(複数回答可)
 TOPICS アグリファニチャー トップメッセージ 物流における取り組み
 TOPICS オフィスのゼロエミッション 環境パフォーマンス オフィスにおける取り組み
 TOPICS エコロジー素材へのこだわり 環境マネジメント コミュニケーション活動
 TOPICS 間伐材の積極的な活用 3Rを中心とした製品づくり

Q5 その他、ご意見・ご感想がございましたらご記入ください。
 ()

Q6 本報告書をどのような立場でご覧いただきましたか。(複数回答可)
 企業の環境担当者 購買(調達)担当者 報道関係者 株主・IR 関係者
 環境NGO・NPO デザイン事務所・設計事務所 学生 行政関係者
 外部調査機関 環境研究者 当社事業所の周辺住民 従業員
 従業員の家族 その他 ()

協力ありがとうございました。おさしつかえなければ、下記にもご記入をお願い申し上げます。

お名前	フリガナ	ご職業	性別	男性・女性
			年齢	歳
ご住所 (ご連絡先)	フリガナ			
	□□□□-□□□□			
TEL	FAX	E-mail		



人と地球の共創社会の 実現をめざし 「Ud&Eco style ユーデコスタイル」を コンセプトにした 多彩な製品&サービスを提供

ユニバーサルデザイン

体格差を考慮した調節機構、操作のわかりやすさ、個別ニーズに合わせた柔軟性など、さまざまな人々の多様なニーズに適応するために、ユニバーサルデザインを視点にした製品開発に取り組んでいます。



エコデザイン

パーツの共用、簡易組立解体構造、再生繊維、再生樹脂などの環境負荷の少ない素材を多用するなど、多角的な視点でエコロジーを追求した製品づくりを行っています。

ユーデコスタイル

ユニバーサルデザインとエコデザインを1つに融合させ、持続可能な共創社会の実現と、すべての人が利用できる製品や環境づくりをすすめるコンセプトです。

NEW PRODUCTS ●主な新製品

ユーデコスタイルを視点に、さまざまなニーズをかたちにした新製品を開発しています。



INFUSE ● インフューズ



PRAO ● プラオチェア



ACCESS ● アクセス

FSX II ● パネルシステム



オフィスのゼロエミッション



富士通ソリューションスクエア内のパティオ

CASE STUDY 1 富士通ソリューションスクエア

オフィス移転による什器の3R率: 100%



富士通ソリューションスクエア外観

■既存什器総量: 701t

- リデュース: 337t
・修理、部品交換 ・クリーニング
- リユース: 26t
・中古販売
- リサイクル: 338t
・マテリアルリサイクル: 312t ・サーマルリサイクル: 26t

CASE STUDY 2 全日本空輸(株) 本社オフィス

オフィス移転による什器の3R率: 96%



本社オフィス受付ロビー

■既存什器総量: 308t

- リデュース: 183t
・修理、部品交換 ・クリーニング
- リユース: 19t
・中古販売
- リサイクル: 94t
・マテリアルリサイクル: 93t ・サーマルリサイクル: 1t

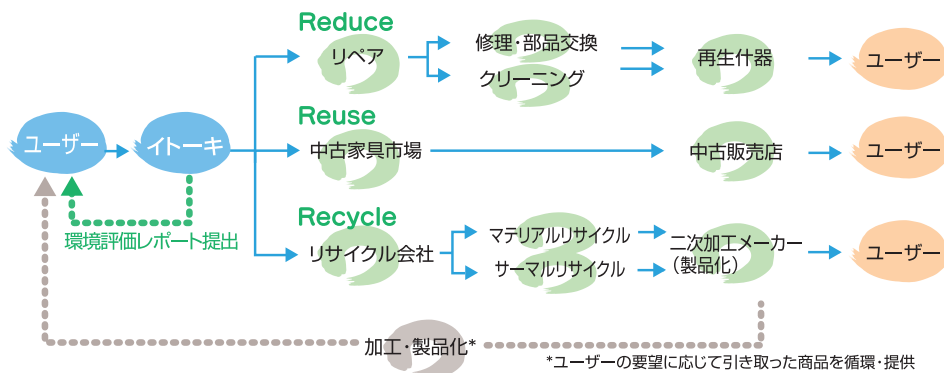
オフィスの移転時には、まだ使える家具が大量に廃棄されてしまうことがあります。イトーキは家具を販売する側の責任として、移転時の廃棄量をできるだけ減らしたいと考えました。

オフィスエコロジーマネジメントシステムは、お客様の不用になった家具などをそのまま廃棄せず、リデュース(リペア・クリーニング)、リユース(中古販売)、リサイクル(マテリアルリサイクル・サーマルリサイクル)することで廃棄物ゼロを実現するサービスです。

さらに、移転後には環境評価レポートを発行し、リデュース、リユース、リサイクルの量、またこの結果どのくらいの二酸化炭素を削減できたかなど、詳細なデータをご報告します。

このようなサービスを積極的に進めることで、環境先進企業のオフィスのゼロエミッション(廃棄物ゼロ)に貢献しています。

オフィスエコロジーマネジメントシステム



エコロジー素材へのこだわり



CZデスクシリーズ

使用済みPETボトルのリサイクルは、自治体を中心となり回収システムの整備が行われています。PETボトルは、フレーク状に粉砕され、ペレットと呼ばれる粒状に加工してから再製品化されるのが通常の工程ですが、技術やコスト面などの課題も多いのが現状です。

このほど開発した独自の新技術では、ペレットへの加工工程を省き、フレーク状から直接製品に成型できるため、製造エネルギーを約50%削減することができます。

この新技術は、良質の原材料(使用済みPETボトル)の確保、成型技術の改善などにより、製品強度の課題などの技術的な問題をクリアし、実現しました。

独自技術で再生PETボトル樹脂の製造エネルギーを約50%削減





MONOA®●モノアテーブル



バイオボード
麦わらを粉碎し、
熱圧成型したボード

エンバイロン
古新聞を粉碎し、
大豆のしぼりかすを接着剤として
熱圧成型したボード



ダコタパール
ひまわりの種を粉碎し、
熱圧成型したボード

「アグリファニチャー」

農産廃棄物を家具素材としてよみがえらせた

ひまわりの種の殻、麦わら、大豆のしぼりかすなど、通常では多量に廃棄されてしまう農産廃棄物を家具素材としてよみがえらせたのが「アグリファニチャー」です。

この製品は、シックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒドなどの有害物質が極めて少ないF☆☆☆☆(JIS規格)相当レベルの素材を使っています。

仕上の塗料にも有害物質を含まないものを使い、焼却時の有害ガス発生量も非常に少なく、廃棄時には土へと還元されます。

このアグリファニチャーのオリジナルシリーズとして開発されたモノアテーブルは、自然のめぐみと美しさを生かした、独自の魅力が溢れるテーブルです。

間伐材の積極的な活用

森林を育てるために間引かれた間伐材の利用促進のために、さまざまな地域の間伐材を採用した家具を開発し、資源の有効活用と地場産業の活性化に貢献しています。



スギ間伐材の応接室用テーブル（高知富士通テクノポート）

スギ間伐材を圧縮し家具に使用

地元県産の間伐材を利用して家具を作って欲しいというお客様のご要望に応え、イトーキは間伐材を採用した家具の開発に積極的に取り組んでいます。

間伐材は小径なので、デスク天板のような大きな板材として使用する際は、集成材に加工して使います。しかし、スギを家具素材として使うには、材質が軟らかいという難点がありました。

そこで、イトーキではスギ間伐材に特殊な圧縮加工を施し、軟らかい木材を押し固めることで家具材として十分な硬度と耐久性をもたせました。

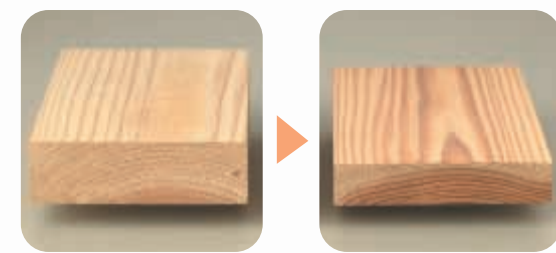
山梨県産のカラマツ間伐材家具

地域によってスギの多い県、カラマツの多い県などの特色が見られます。山梨県では森林の約47%が人工林であり、なかでも最も多い樹種はカラマツです。

カラマツは硬くて腐りにくい性質から、戦後復興の土木工事の杭として大量の需要がありました。しかし、ヤニがにじみやすく、ねじれなどの狂いが生じる欠点があり、昨今では用途が減少していました。イトーキは、カラマツ間伐材の利用を促進させるために、山梨県産カラマツの集成材を天板に使用したデスクやテーブルの開発に取り組みました。



カラマツ集成材家具が納入された西桂中学校の職員室



スギ間伐材の圧縮前(左)と圧縮後(右)



スギ間伐材の折りたたみテーブル（兵庫県かみ総合福祉センター）



スギ間伐材のロビー用ベンチ（岡山県美甘村庁舎 保険文化センター）



スギ間伐材のロビー用ベンチ（兵庫県庁舎）



カラマツ集成材家具が納入された南アルプス市立若草生涯学習センター

「やまなしグッドデザイン賞」を2年連続受賞

山梨県からご相談をいただいたイトーキは、県と共同で家具素材として安心して使用できる品質をめざし、実験・試作を繰り返しました。この取り組みによって生まれたカラマツ間伐材家具は、毎年山梨県が選定している「やまなしグッドデザイン賞」を2年連続で受賞しました。



賞状

「2003年やまなしグッドデザイン特別賞」を受賞した会議用テーブル。

間伐しないと森が育たない

日本では、スギ、ヒノキ、カラマツなどの針葉樹の人工林が多く存在しています。戦後、荒廃した国土を再生しようと国を挙げて植林が行われ、生長が早く、比較的どこでも育つこれらの針葉樹は日本各地で一気に広がりました。

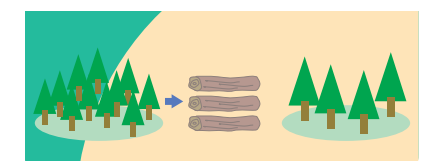
現在、日本の森林の約41%が針葉樹の人工林です。その人工林を樹種別にみると、①スギ44%、②ヒノキ25%、③カラマツ10%の順になります。（2002年3月現在）

これらの人工林は人が手入れをしなければ健康に育ちません。その手入れの1つが木を間引きする間伐です。間伐は定期的に行わなければならないのですが、人手不足、コストの面などで手入れが行き届かない森が増え、問題となっています。間伐を行わない森は木の根付きが悪く、大雨による土砂災害や、倒木による被害が起こる危険性があります。

そのため、国や地方自治体を中心になって、間伐作業とこれにより発生する間伐材の積極的な活用が進められています。グリーン購入法でも、間伐材などの使用は、判断基準の1つとなっております。

森林の間伐によって

- ①木が大きくなる
- ②林の中が明るくなり草木が育つ
- ③土壌が保全される



「きっと、もっといい明日」ユーデコスタイル

21世紀を迎え、弊社では「人と地球が調和する共創の社会の実現」をめざした新しい企業コンセプト「Ud&Eco style (ユーデコスタイル)」を掲げ、事業活動を展開しております。「Ud&Eco style」を単に製品づくりのデザインだけにとどめず、企業活動のすべての段階で取り組むべき大きな概念と位置付け、推進してまいりました。

弊社は2002年にISO14001の全社認証を取得いたしました。今年度の環境報告書では、初めて全社の環境パフォーマンスデータをまとめてご報告いたします。この2003年度を環境データ元年と位置付け、2006年度の目標値を設定しました。現在導入を進めております環境会計などの活用により、今後、一層環境マネジメント活動のレベルアップと効率化を進め、環境経営に邁進していく所存です。

平成16年5月に新しい環境ビジネスとして「(株)エコ・ブランディング」を設立しました。新会社設立の目的は、お客様の不用になったオフィス家具のリユース、リサイクルおよび最終処

分を管理し、その結果を報告してお客様の環境に対する取り組みをサポートすることです。すでに10数件の実績もあり、数多くのお問い合わせをいただいております。この事業はオフィス家具を販売する弊社の主業務と相反する点もありますが、資源の有効活用の観点から積極的に展開して参ります。

環境報告書の発行は今回で5年目になりました。環境保全活動と社会貢献活動は企業の社会的責任でもあります。環境報告書はこれらを説明する一つの手段と捉え、今後も引き続き、弊社の活動の姿勢と結果をご報告させていただくこととお約束いたします。

最後に、私は平成16年4月28日付にて、代表取締役社長に就任いたしました。前社長の思いを受け継ぎ、環境活動の強化に向けて努力したいと考えております。

2003年度の環境活動をここにご報告し、今後の活動へのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。



株式会社イトーキ
代表取締役社長 鈴木 昭

イトーキ環境理念

持続可能な循環型社会を実現するために、イトーキは企業活動の全ての段階で責任をもって地球を守る、環境重視主義に徹します。

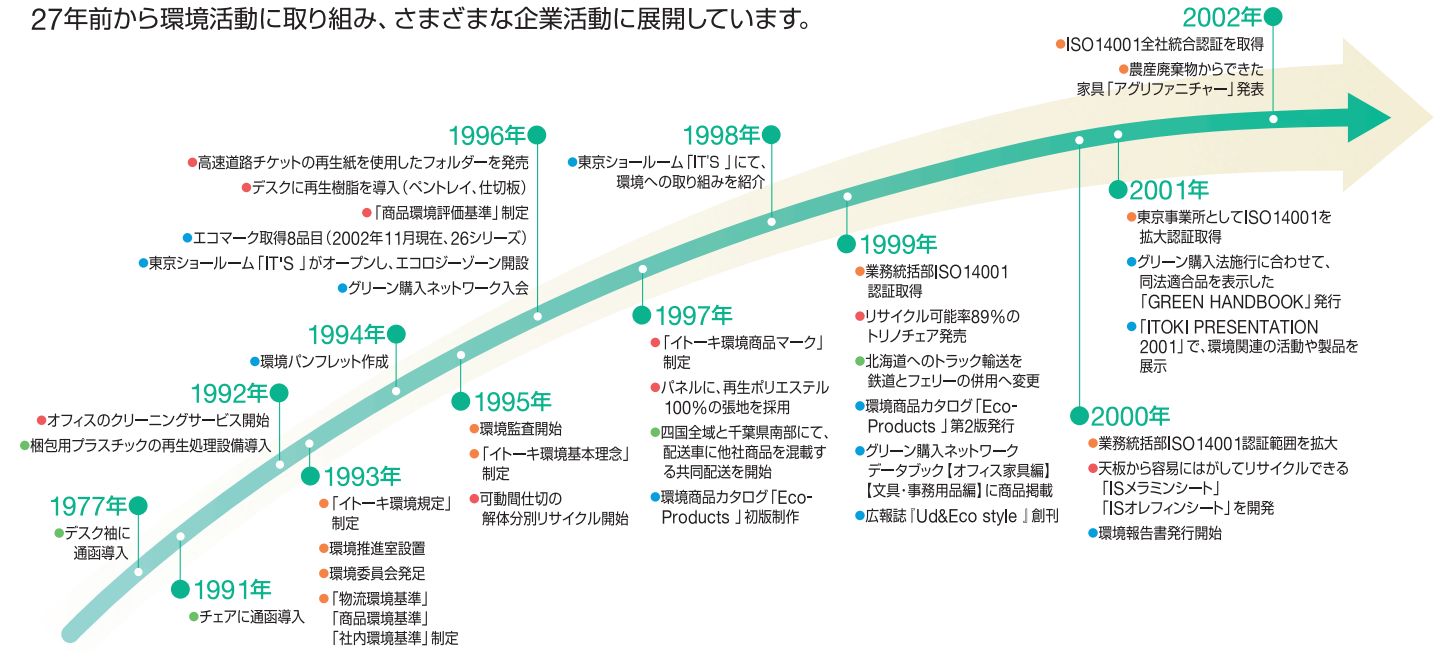
イトーキ環境方針

株式会社イトーキは環境理念を達成するため、当社の環境に対する意志と姿勢を明確にした下記の環境方針を定め、環境保全に取り組みます。

- | | |
|---|--|
| <p>① 製品・サービス
地球環境の保全に役立つ製品とサービスを提供する。製品およびサービスの企画、開発から廃棄までの各段階で環境に配慮する。</p> <p>② 新技術・新システム
地球環境の保全に役立つ発明、特許等を積極的に取り上げ、斬新な新製品、新システムとして世に送り出す。</p> <p>③ 汚染の予防
常に、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、有害物質の排出防止等により汚染の予防に努める。</p> <p>④ 広報
環境問題の重要性を広く社会に呼びかけ、自社の環境施策を積極的に開示する。</p> | <p>⑤ 法令
国、地方自治体等の関係法・条例等を遵守する。</p> <p>⑥ 調達
環境負荷の少ない設備、備品の調達に努める。</p> <p>⑦ 教育
社員への教育・啓蒙活動を実施して、従業員一人ひとりが環境に配慮する意識の向上に努め、日常業務に反映する。</p> <p>⑧ 環境マネジメントシステム
環境マネジメントシステムを構築し、各部門で順次ISO14001を受審し、認証取得をする。取得部門は、目的、目標を設定して実施の上、目的、目標の見直しをする。
制定 1995年8月経営会議
改訂 1999年3月経営会議</p> |
|---|--|

環境活動のあゆみ

27年前から環境活動に取り組み、さまざまな企業活動に展開しています。



会社概要

- 社名 株式会社イトーキ
- 英文 ITOKI CO.,LTD.
- 代表取締役社長 鈴木 昭
- 創業 明治23年12月1日
- 設立 昭和8年12月26日
- 資本金 99億800万円
- 本社所在地 大阪市中央区淡路町1-6-11
東京本社事務所：東京都中央区入船3-2-10
大阪本社事務所：大阪市中央区平野町2-4-12
- 事業所・物流拠点 事業所数44、配送センター数8
- 年間販売高 2000年：1,110億1,000万円
2001年：1,120億1,000万円
2002年：1,022億2,200万円
2003年：978億2,000万円
- 従業員数 2000年3月末：1,258名
2001年3月末：1,222名
2002年3月末：1,262名
2003年3月末：1,308名

事業概要

- オフィス家具の販売
事務用デスク、事務用チェア、収納家具、パネル、金庫、耐火什器等
- 設備機器の販売
建築設備機器、内装インテリア、物流設備機器、セキュリティ設備機器、情報設備機器、商業設備機器、研究設備機器等
- その他
組立・施工等の物流サービス、修理、メンテナンス等

経営上の大きな変更

2003年6月、株式会社イトーキマーケットスペースを設立。
イトーキおよびグループ会社であるイトーキレビオの商業施設事業を統合・分社しました。

CONTENTS

- | | |
|--|--|
| <p>イトーキto環境対策
・環境パフォーマンス.....10
・環境マネジメント.....12</p> <p>製品de環境配慮
・3Rを中心とした製品づくり...14</p> <p>物流de環境配慮
・物流における取り組み.....18</p> | <p>販売de環境対策
・オフィスにおける取り組み.....19</p> <p>イトーキto社会
・コミュニケーション活動.....20</p> |
|--|--|

※イトーキホームページ上でも環境に対する取り組みを公開しています。あわせてご覧ください。
<http://www.itoki.co.jp>

事業活動にともなうさまざまな環境への影響を把握し、
環境負荷を削減するために環境目的・目標の達成に取り組んでいます。

事業活動にともなう 環境への影響

イトーキは、事業活動のどのような場面で、どのような影響を及ぼしているのかを把握し、これらの環境負荷をできるだけ軽減するよう環境保全活動に取り組んでいます。

【集計範囲の変更について】

■エネルギー、紙類の集計対象を増やしました。また、電力のエネルギー換算に使用していた係数を変更しています。

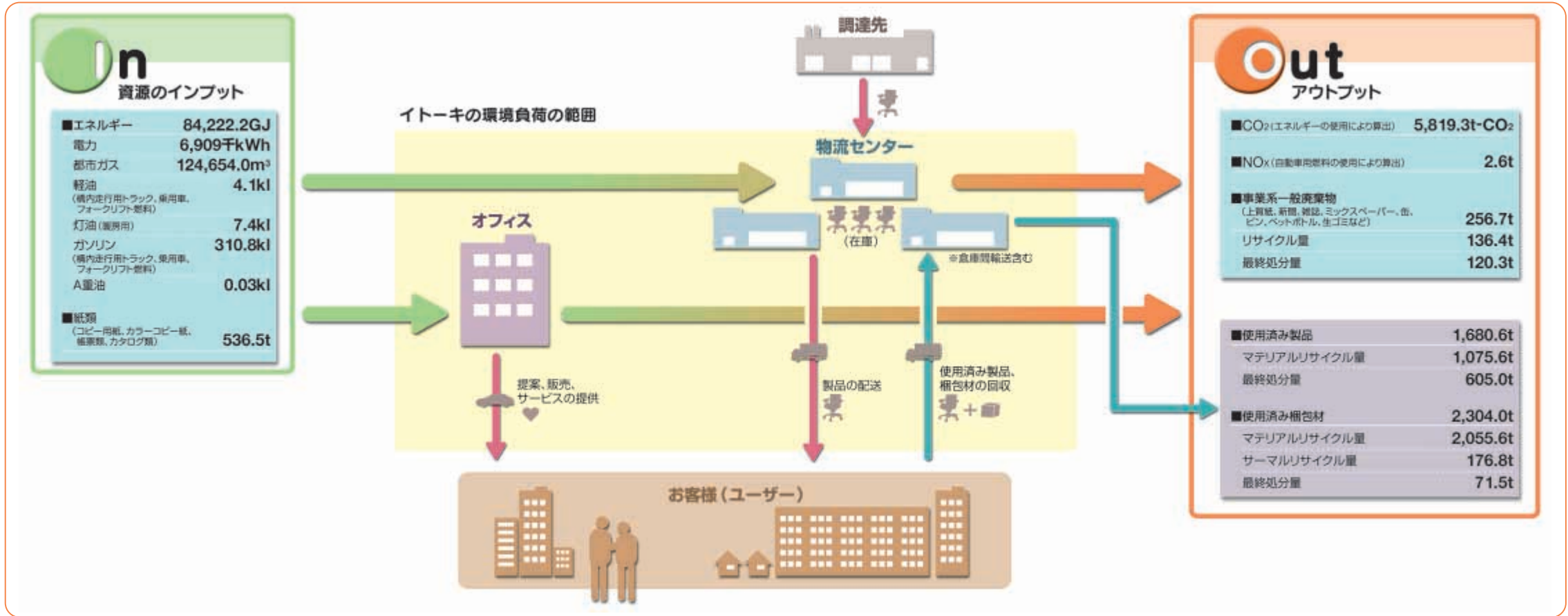
【算定係数について】

各数値の換算は、下記資料を参考にしています。

■エネルギー
電力は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則」に基づき、9,830kJ/kWhを採用。その他については、「エネルギー源別発熱量表」(資源エネルギー庁)。なお、1kJ(キロジュール)=約0.24kcal(キロカロリー)

■CO₂(二酸化炭素)
「事業者による温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」(環境省)の「排出係数表」

■NO_x(窒素酸化物)
「エコアクション21 2002年4月版」(環境省)の「NO_x排出量算定表」



2003年度の 環境目標と実績

2003年度は、ISO14001全社統合認証を受けた実質1年目の活動となり、エコオフィス活動(電気、紙の使用量削減、廃棄物の排出量削減、リサイクル率の向上)に重点をおいた活動となりました。特に廃棄物のリサイクル率向上については、オフィス、物流各サイトでの工夫、努力により目標を達成しました。ただし、廃棄物の排出量の削減目標は達成できず、次年度以降への課題となっています。2004年度から2006年度は、エコオフィス活動のさらなる定着と、環境活動を本来業務とマッチングさせることにより、より環境にやさしい活動の充実を目指します。

【表の見かた】

- 目標達成
- ▲ 目標3ポイント以内の未達成
- × 目標達成せず

■物流の目標と実績
出荷才数100才あたりの原単位比
1立方メートル=36才

課題	2003年度 実績	評価	詳しくはこちら
環境に配慮した商品の開発および設計	●再生材、未利用材を使用した家具の開発(アグリファニチャー、モノアテーブルなど)	●	P3~7、14、15
	●ゴミの分別をサポートする収納家具の開発	●	
	●グリーン購入法適合品率: 87.5%	●	
	●製品環境評価基準の徹底	●	
環境に配慮した空間デザイン、商品、サービスの提供	●チェックシートによる環境に配慮した設計の提案、実施	●	P3~7、14、15
	●お客様の不用什器のゼロエミッション	●	
	●オフィスエコロジーマネジメントシステムの実施: 15件	●	
	●チェアのリペア: 24件 ●オフィスのクリーニング: 59件	●	
グリーン購入の推進	●グリーン購入法適合品の販売: 3,374千円	●	P19、20
	●イトーキグリーン購入ガイドラインの改訂	●	
Ud&Eco style (エコとユニバーサルデザイン)の情報発信	●グリーン購入率: コピー用紙 77.3% 、パンコン・ディスプレイ 99.8%	▲	P19、20
	●ショールームにUd&Ecoコーナーを設置	●	
	●社内版のUd&Ecoホームページ開設	●	
	●7月に「イトーキ環境報告書2003」を発行	●	
	●e-ラーニングシステムを導入	●	

課題	2003年度 目標 (2001年度比)	2003年度 実績 (2001年度比)	評価	2004年度 目標 (2003年度比)	2006年度 目標 (2003年度比)	詳しくはこちら
環境に配慮した輸送・配送	トラックのCO ₂ 排出量 10.0%削減	●アイドリングストップ、物流プロセスの改善により、トラックのCO ₂ 排出量の削減: 32.0%減	●	2.1%減	5.0%減	P18
	梱包材の使用量削減	●ブレーゴチェアの直送を開始。製品の移動距離減によるCO ₂ 排出量の削減 ●製品の輸送のモーダルシフト。JRコンテナの活用によるCO ₂ 排出量の削減	●			
省エネ省資源の促進	使用済み製品、梱包材の分別リサイクル推進	●チェア通函によるダンボール使用量の削減	▲			P16、17
	電力使用量の削減	●使用済み製品のリサイクル率大幅アップ: 64.0% ●使用済み梱包材のリサイクル率やアップ: 96.9%	●			
	コピー用紙使用量の削減	●チェア通函によるダンボール使用量の削減	▲			P19
	●オフィス: 5.8%減 ●物流: 3.0%減	●オフィス: 5.3%減 ●物流: 5.3%減	▲	●オフィス: 1.9%減 ●物流: 2.2%減	●オフィス: 4.0%減 ●物流: 5.0%減	
	●オフィス: 5.5%減 ●物流: 10.0%減	●オフィス: 1.1%減 ●物流: 35.0%減	×	●オフィス: 2.6%減 ●物流: 2.8%減	●オフィス: 5.0%減 ●物流: 10.0%減	
	廃棄物の排出量削減	●オフィス: 14.6%減 ●物流: 10.0%減	×	●オフィス: 4.2%減 ●物流: 0.9%減	●オフィス: 8.0%減 ●物流: 現状維持	
廃棄物のリサイクル率	●オフィス: 59.6%以上 ●物流: 75.0%以上	●	●オフィス: 67.0%以上 ●物流: 83.0%以上	●オフィス: 75.0%以上 ●物流: 90.0%以上	P16、17、19	
ファイル用品、備品類の再利用促進	ファイル用品などの社内再利用	▲				

イトーキは、より高いレベルで環境マネジメントシステム(EMS)を推進し、
全社員一人ひとりの環境意識向上を図っています。

ISO14001 全社統合認証を取得

イトーキは、1999年11月に業務統括部(関東物流センターおよび開発部)においてISO14001を認証取得して以来、毎年、認証範囲を拡大し、2002年11月に全社統合認証を果たしました。これにより、イトーキの全ての活動がEMSの対象範囲となり、製品の設計からお客様への納品までの全ての段階で、よりレベルアップした環境保全活動に取り組んでいます。



ISO14001審査風景

EMSの組織体制

イトーキ全従業員および社外員による総勢1,572名(うち359名は社外員)のEMS組織です。それぞれのサイトにはサイト責任者を任命し、当該サイトの環境に関わる責任を担っています。また、サイト責任者の下には、環境運用管理者、数名の環境推進リーダーと環境推進員を配し、各事業所の活動を推進しています。

EMS組織 1,572名

内部環境監査の実施

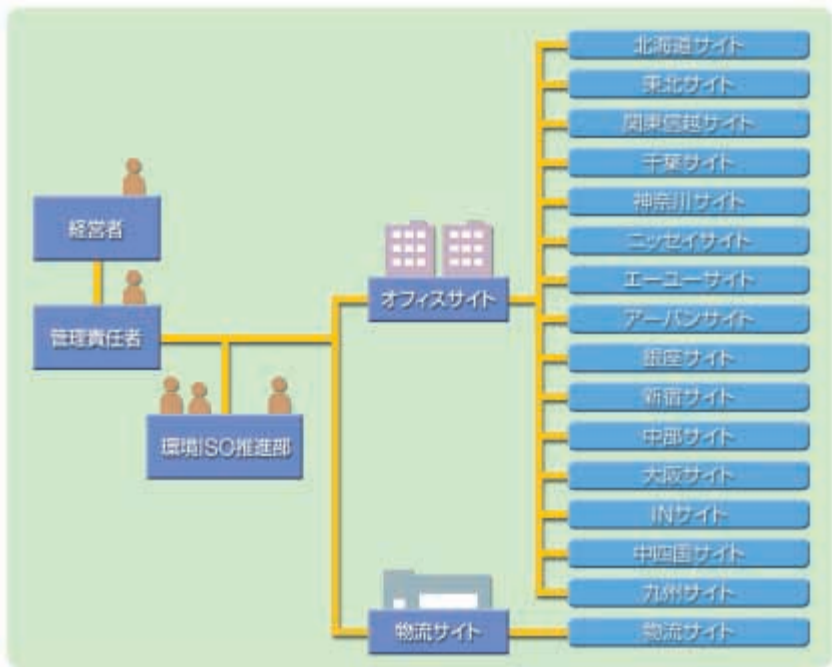
年に1度、EMSの効果、適切性、適法性などをチェックする内部環境監査を実施しています。ルール通りに運用されているか、ルール上の矛盾やあいまいさはないかなど、内部監査員が厳しい指摘を行い是正します。2003年度は、「重大な不適合」が5件、「軽微な不適合」が71件指摘されました。これらはただちに是正処置を講じ、改善しています。

内部監査員 77名



ISO14001登録証

●ISO14001推進組織体制



●ISO14001登録範囲

家具、施設機器、建材内装設備と商業施設機器の販売、開発・設計、製造、施工、保管及び物流に係わる事業活動

●登録日
1999年11月11日

●全社統合認証登録日
2002年11月11日

外部審査会社による定期審査

認証維持のため、2003年10月に外部審査会社による定期審査を行いました。審査の結果、「重大な不適合」はなく、トラックの廃オイル管理に関する「軽微な不適合」1件については、手順書に明記するなどの対応によりすでに改善しています。

審査委員の方々からは、九州サイトで10年前より継続しているオフィスビ

ル周りの早朝清掃や、ニッセイサイトの創意工夫のある「エコオフィス活動」などについて評価していただきました。

全国認証取得から初めての定期審査となりましたが、今後も全サイト、全要員が一丸となってより高いレベルを目指した活動に取り組んでいきます。

従業員のEMS教育

全従業員および社外員に対して、EMSと環境施策への理解度を深め意識向上を図るために、年1回「自覚の教育」を行っています。また、特に環境側面に深く関わる部門や担当者に対しては、実務経験者を対象に、それぞれの業務のなかで環境活動を行うための専門教育を行っています。

■全従業員への「自覚の教育」内容

- A. 地球環境問題、ISO14001規格
 - B. 全社の環境への取り組み目標と実績
 - C. サイト別の実績と課題、手順の確認
- ※A、Bはe-ラーニングシステムにて実施

■関連部門の専門研修内容

- 製品設計における環境配慮
- 環境にやさしいオフィスプランニング
- 物流業務における環境負荷の削減

■その他の研修

- 内部環境監査員のレベルアップ研修
- 新入社員研修

緊急事態に備えた訓練

イトーキでは、倉庫内で火災が発生した場合の煤煙による大気汚染、給油施設の油漏れによる水質汚濁について、緊急事態を想定した対応手順書を作成しています。各物流センターではこの手順書に基づき、年1回の実地訓練や年2回の設備機器の配置・作動確認等を実施し、緊急事態に備えています。

EMSの個人目標への反映

環境サイト責任者、環境運用管理者、環境推進リーダーおよび環境推進委員は、それぞれの任務を業務の目標として掲げ、EMSの維持改善活動を展開しています。

ニッセイサイト、中央区より感謝状授与

ゴミ減量・リサイクルに積極的に取り組んでいるビルとして評価

オフィスビルの多い中央区では、ビルから排出される事業系廃棄物の減量・リサイクルを推進するために、毎年、事業用大規模建築物を対象に、ゴミ減量やリサイクルに積極的に取り組むビルに区长感謝状を授与しています。

2003年は4つの大規模事業所が選ばれ、その1つとしてイトーキのニッセイサイトとなる「ニッセイ入船3丁目ビル」が表彰されました。

今回の取り組みでは、以下の3つが大きなポイントとしてあげられます。

4つの分科会の立ち上げ

「広報のあり方」「分別パフォーマンスのあり方」「発生抑制の仕組みづくり」「フロアごとの実態把握と改善」の4つの分科会を立ち上げ、全員参加のもとみんながわかりやすい仕組みづくりを行いました。

紙のリサイクル率99%へ

それまで75%前後だった紙のリサイクル率を上げるために、細かい分別表を掲示して分別を徹底しました。さらに、焼却していた機密文書や雑紙を溶解リサイクルすることで、リサイクル率98.8%と大幅にアップすることができました。

ビル独自のリサイクルルートを開拓

割り箸リサイクルのルートを独自に開拓し、再生紙にリサイクルしたほか、ベンダー会社と協力して自動販売機のカン、ビン回収の仕組みを確立しました。

これらの活動が単なるゴミの減量だけではなく、社員1人ひとりが環境配慮を考えて行動するきっかけとなったことが、今回の何より大きな成果といえるかもしれません。



表彰状を授与される馬場サイト責任者



中央区による立ち入り検査が行われた

素材の選定から廃棄に至るまで、
製品づくりの全ての段階で
リデュース、リユース、リサイクルの
3Rを推進しています。



素材選定 限りある資源を大切に安全に活用するために



リサイクル素材などを製品に使用

樹脂パーツと張地部分は、ほとんどの製品でリサイクル材を採用しています。
また、農産廃棄物や間伐材など、未利用の自然素材を製品に活用しています。
(詳しくはP5~7をご覧ください)

■再生樹脂 回収したバッテリーケースから再生したポリプロピレンをチェアやデスクなどのパーツに使用。

■再生繊維 使用済みPETボトルを原料にした再生ポリエステル繊維をチェアやパネルなどの張地に使用。

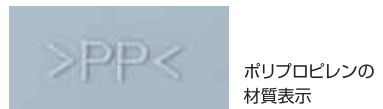
■再生紙 使用済みの高速道路通行券を100%配合した再生紙をファイル用品のフォルダーなどに使用。

リサイクル可能な素材の使用

リサイクル率が高いスチール、アルミなどの金属や、ポリエチレン・ポリプロピレンなどのオレフィン系樹脂を製品に積極的に使用しています。樹脂パーツには、廃棄時の分別やリサイクルがしやすいように、パーツごとに材質表示をしています。



トリノチェアは、背座とエアシリンダーを除く89%がリサイクル可能



ポリプロピレンの材質表示

天板にはF☆☆☆☆以上を採用

テーブルやデスクなどに使われる木質材は、シックハウス症候群の原因のひとつとなるホルムアルデヒドの放散量が少ないF☆☆☆☆(※)レベル以上を使用しています。また、最も放散量の少ないF☆☆☆☆(※)レベルも積極的に採用しています。

※ホルムアルデヒド放散量のJIS規格

F☆☆☆☆	0.3mg/L以下
F☆☆☆☆	0.5mg/L以下

●F☆☆☆☆レベルの天板を使用している製品：エーキューズ・デスクシステム、フリージョイントデスク、リリッシュテーブルほか

設計段階 使いやすくリサイクルしやすい製品のために



リサイクル法への対応

2001年4月より資源有効利用促進法(リサイクル法)が施行されました。

イトーキでは法律にもとづき、リデュース、リサイクルの2つの側面から評価を行う「製品環境評価基準」を策定し、新製品開発および設計変更の際に適用しています。

●対象：金属製の事務用机・回転椅子・収納家具・棚

業界団体の規定

業界団体であるJOIFA(日本オフィス家具協会)の「JOIFA環境自主行動計画」と「オフィス家具の環境対策ガイドライン」を遵守しています。

環境に配慮した設計の提案

研究設備、金庫設備、ネットワーク設備の分野では、「環境に配慮した設計項目チェックシート」を作成し、顧客対応物件ごとにチェックシートに沿った設計と製品の提案を行っています。

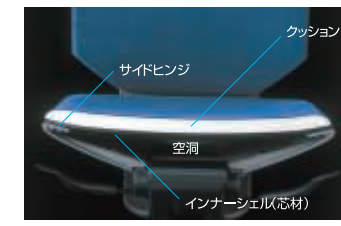
製造段階 環境を壊さない製品づくりのために



チェアのクッションを省資源化

座の芯材にスリットを入れてクッション性を高めることで、クッション材のウレタン厚を従来の半分に削減し、省資源化を実現させました。また、ウレタンは製造時に生じた端材も使用しています。

●関連製品：レビーノチェア、トリノチェア、マノスチェア、クリケットチェアなど



フロントベンディングシート(トリノチェア)



70以上のスリットが入っている座のインナーシェル(マノスチェア)

使用段階 いつまでも快適にお使いいただくために



チェアの部品交換

チェアはキャスターや背・座が簡単に交換でき、製品自体が長く使えます。「部品の修理・交換が容易な事務用および学校用椅子」として11シリーズでエコマークを取得しています。



キャスターの交換



レビーノチェアの背座クッションの交換

オフィス家具のクリーニングサービス

使用中のオフィス家具の頑固な汚れやシミをプロの技術で洗浄し、家具をリフレッシュさせるサービスを行っています。あらゆる家具・素材に対応でき、専用機材と環境に害のない洗浄剤を使用。製品のロングライフ化に貢献します。首都圏では2003年度に59件実施しました。



専用洗浄機で汚れを強力に除去

チェアのリペア

長期使用による汚れやいたみのあるチェアやソファは、張地やクッションの取替え、木部の傷の補修や再塗装などのリペアが可能です。また、テーブルやデスクも木部の補修などのリペアを行っています。

廃棄段階 リサイクルを有効に進めるために

使用済み製品を回収しリサイクルを実施

新規購入されたお客様に製品を納品する際に、使用済み製品の引き取りサービスを行っています。回収した製品は、物流センターなどの一時集積場所に集められます。そこで、各製品を解体・分別し、素材ごとにリサイクル業者へ送ります。

チェア、デスク、会議用テーブル、可動間仕切など、どんな形状の家具でも解体・分別し、できる限り素材ごとのリサイクルを行います。金庫は特殊な構造をしているので、金庫ごと処理業者へ送り、そこで解体します。

廃棄物処理法への対応

物流センターおよび新規納品現場から出る使用済み製品などの産業廃棄物は、廃棄物処理法の対象となります。イトーキでは法律にもとづいて、処理業者の許可や契約締結の確認、マニフェスト(産業廃棄物管理票)の発行を行い、適正な処理の委託に努めています。

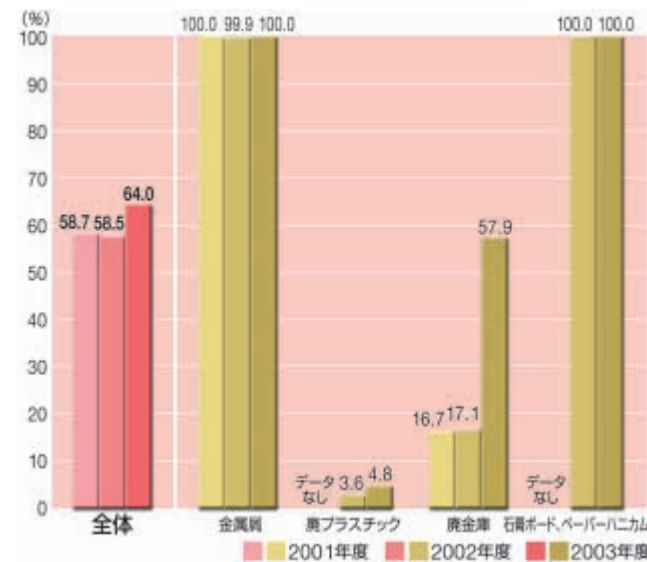
使用済み製品の肉訳

		2001年度	2002年度	2003年度
金属屑	総量	1,237.6	1,021.3	955.9
	リサイクル量	1,237.6	1,019.8	955.7
	最終処分量	0.0	1.5	0.2
廃プラスチック	総量	664.7	587.5	567.9
	リサイクル量	0.0	20.9	27.3
	最終処分量	664.7	566.6	540.5
廃金庫	総量	287.2	242.6	152.9
	リサイクル量	48.1	41.5	88.6
	最終処分量	239.1	201.1	64.3
石膏ボード ペーパーハニカム	総量	データなし	2.6	3.9
	リサイクル量	データなし	2.6	3.9
	最終処分量	データなし	0.0	0.0
最終処分量(全体)		903.8	769.2	605.0
総量(全体)		2,189.5	1,854.0	1,680.6

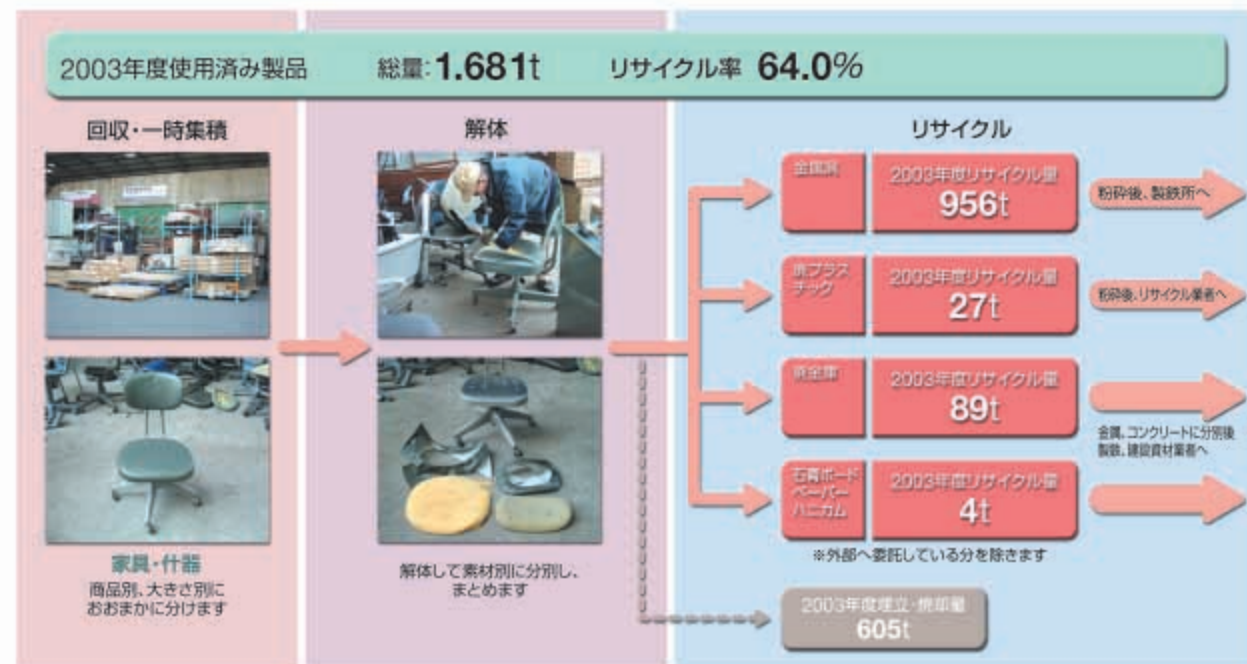
対象:物流サイト

2003年度は、首都圏での廃金庫のリサイクルが進み、リサイクル率が17.1%から57.9%へ大幅に向上し、全体のリサイクル率にも貢献しました。

使用済み製品のリサイクル率



使用済み製品のリサイクルフロー



使用済み梱包材のリサイクル

製品の梱包材はお客様に納品後、当社の一時的集積場所に持ち帰ります。そこで、素材ごとに分別し、リサイクルに努めて

います。1992年より、関東物流センターに発泡スチロールの溶融固化やポリエチレンシートの圧縮のための設備機

器を導入し、発泡スチロールは玩具やカセットテープに、ポリエチレンシートは屋根の下地材にリサイクルしています。

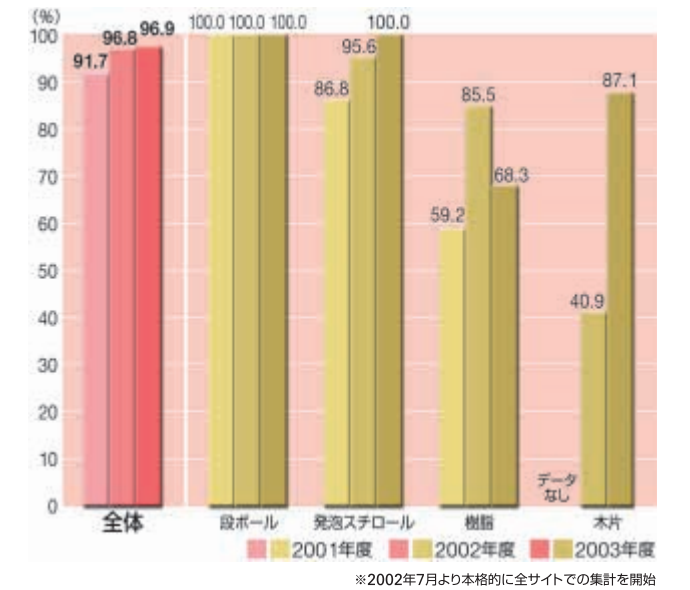
使用済み梱包材の内訳

		2001年度	2002年度	2003年度
段ボール	総量	1,980.6	1,838.4	2,021.6
	リサイクル量	1,980.6	1,838.4	2,021.6
	最終処分量	0.0	0.0	0.0
発泡スチロール	総量	5.3	4.5	5.6
	リサイクル量	4.6	4.3	5.6
	最終処分量	0.7	0.2	0.0
樹脂 (ポリエチレンシート、 ビニール類)	総量	229.8	122.1	190.2
	リサイクル量	136.1	104.4	129.9
	最終処分量	93.7	17.7	60.3
木片 (木枠、廃パレット、 ペニヤ類)	総量	97.0	79.8	86.5
	リサイクル量	データなし	32.7	75.3
	最終処分量	データなし	47.1	11.2
最終処分量(全体)		191.3	65.0	71.5
総量(全体)		2,312.7	2,044.8	2,304.0

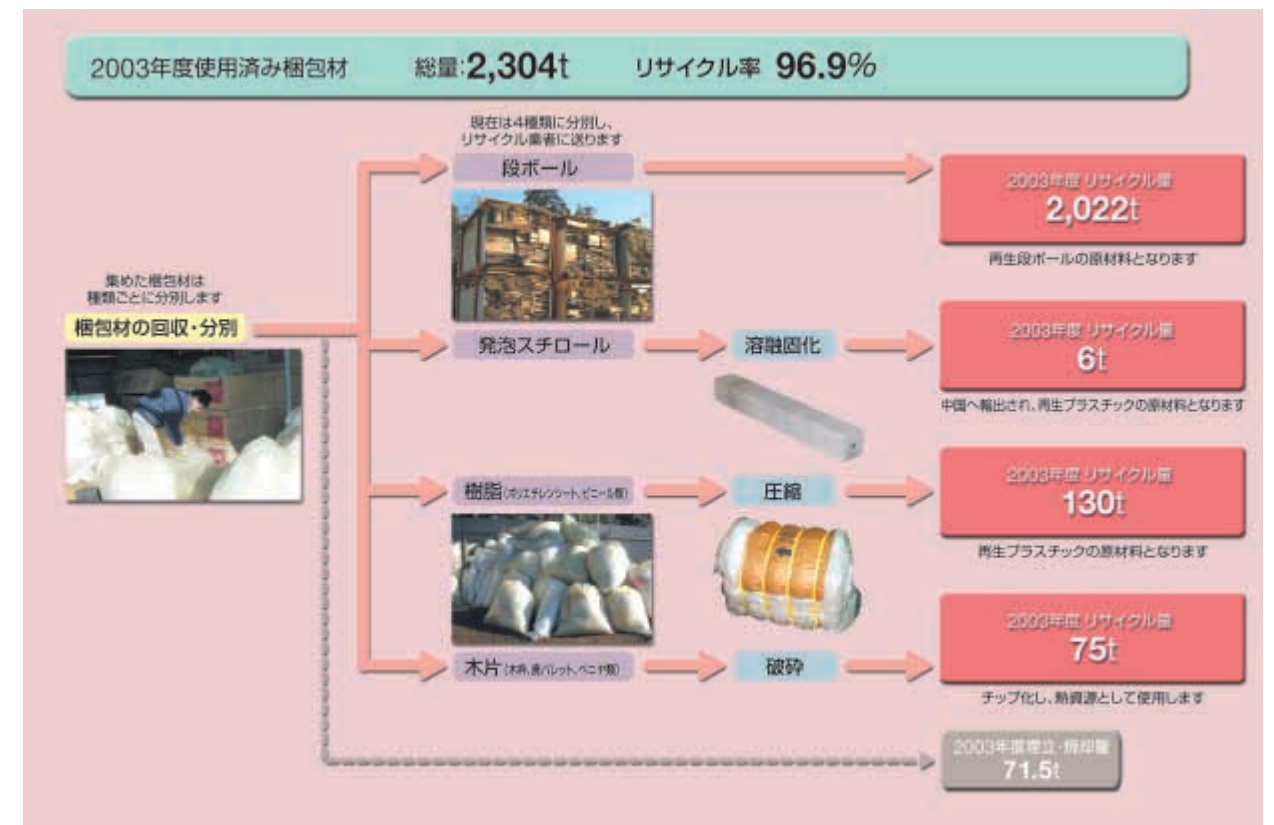
単位:t 対象:物流サイト

2003年度は段ボールに続いて、発泡スチロールが100%リサイクルになったほか、木片に関してはサーマルリサイクルが進み、リサイクル率が約2倍になりました。

使用済み梱包材リサイクル率



使用済み梱包材のリサイクルフロー



製品の輸送方法改善による二酸化炭素や排気ガスの排出抑制、梱包材の省資源化やリサイクルを行っています。

輸送にともなう二酸化炭素排出の抑制

●モーダルシフト

二酸化炭素の排出量を削減するために、製品の幹線輸送の一部をトラックから二酸化炭素排出量の少ないJRコンテナへ切り替えるモーダルシフトを実施しています。現在は、パネル工場とデスク工場の輸送でJRコンテナを導入しています。

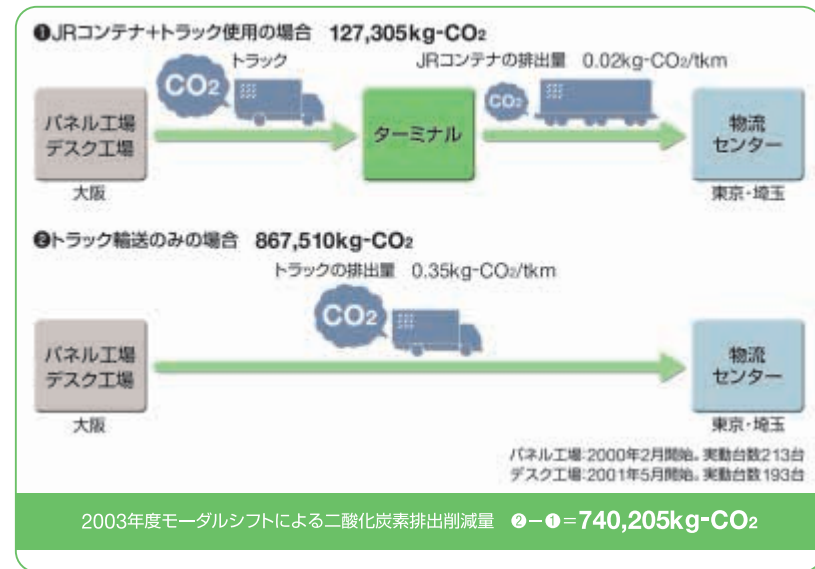


幹線輸送を担うJRコンテナ

●チェア直送で輸送効率アップ

関東・関西にある拠点を通さず、工場から直接全国の物流センターに製品を運ぶ仕組みを構築しています。これにより、輸送トラック、庫内フォークリフトの

移動距離・移動回数を減らし、二酸化炭素の排出量を削減できます。現在はチェア1機種のみですが、今後拡大していく予定です。



●低公害車への転換

輸送トラックに天然ガス(CNG)を使用する低公害車を導入しています。天然ガスを燃料とする車は、ガソリンや軽油と比較して地球温暖化の原因となる二酸化炭素や大気汚染の原因となる窒素酸化物、一酸化炭素などの排出量が少なく、環境面に優れています。

天然ガス(CNG)車導入台数
2003年度 10台



天然ガスを燃料に走るエコトラック

●電動フォークリフトへの切替え

1991年から、構内作業用のフォークリフトはガソリン式から二酸化炭素排出量の少ない電動式への切替えを推進しています。

電動フォークリフト導入台数
2003年度 110台
(フォークリフト総台数 147台)

梱包材の省資源化

●環境に配慮した資材の購入

梱包材、養生材などは、環境に配慮した製品を優先的に購入しています。たとえば、プラスチックは焼却時に有害な塩化水素ガスを発生しないオレフィン系樹脂、合板(ベニヤ板)はシックハウスの原因ともいわれるホルムアルデヒド放出量の少ないもの、そのほかエコマーク認定品などを推奨、購入しています。

●繰り返し使える通函の使用

繰り返し使用できる梱包材として通函をはじめ導入したのは1977年。それ以来ずっと、チェア(アペーラチェア、アメリカチェア、スペック-Kチェア)やデスク袖の配送に通函を使用しています。



通函の封函方法はテープを一切使用しない差し込み式

通函による段ボール節約量
2003年度 8万7,000ケース(89t)



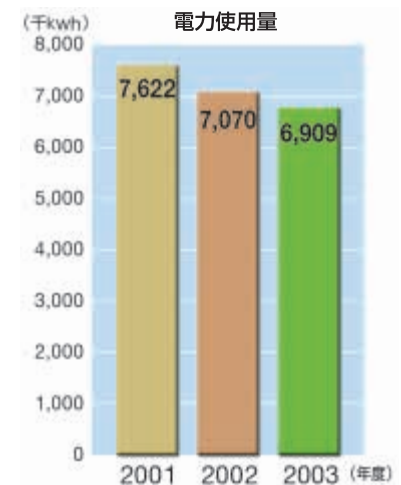
配送に使用した通函を回収し、何度も使用します

エネルギーや資源の節約、コピー用紙のグリーン購入など、オフィスの日常業務の中で環境活動を行っています。

社員一人ひとりが行う「省・省・分・リ」活動

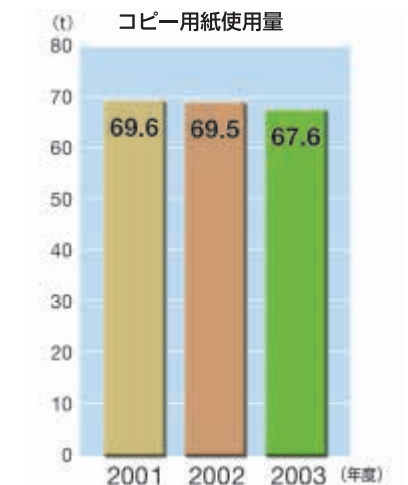
●省エネルギー

こまめな消灯や離席時のパソコンの電源オフ、冷暖房の温度管理を行っています。情報機器を省エネ型へ切り替えています。



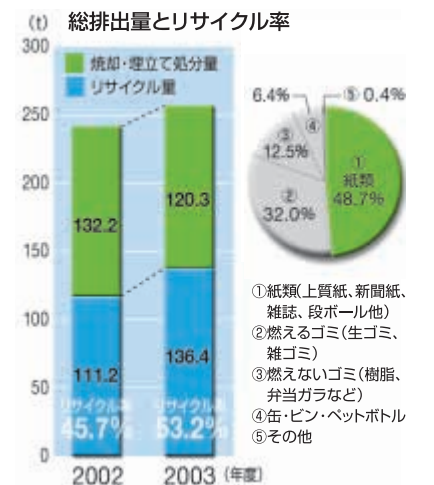
●省資源

オフィスの廃棄物の約半分は紙類です。そこで帳票類の電子化やコピー用紙を裏紙に利用するなどにより使用量の削減に努めています。



●分別・リサイクル

ファイル用品・文具の再使用や、ゴミの分別の徹底によりオフィスにおける廃棄物の削減とリサイクル率アップを目指しています。



社内の物品購入における配慮

●イトーキグリーン購入ガイドライン

当社では、社内の物品購入のために、イトーキ独自の「グリーン購入ガイドライン」を作成し、環境負荷の少ない消耗品や機器類の購入を推進しています。

2003年度の改訂では、これまで6品目だった購入対象を11品目まで増やし、さらにグリーン購入を推進していきます。

グリーン購入ガイドライン対象品目

- ①コピー用紙 ②文具・事務用品 ③コピー機
- ④プリンター ⑤ファックス ⑥シュレッダー
- ⑦エアコン ⑧パソコン ⑨テレビ
- ⑩蛍光灯照明器具 ⑪自動車

2003年度コピー用紙と情報機器のグリーン購入率

グリーン購入法適合コピー用紙	77.3%
国際エネルギースター適合パソコン	99.8%
※ディスプレイおよびノートパソコンを対象	
国際エネルギースター適合プリンター	80.8%
国際エネルギースター適合複写機&ファクシミリ	46.4%
※複合機も含む	

●低公害車の導入

営業などで利用するオフィスの社用車も、徐々に環境に負荷の少ない低排出ガス車を導入しています。

低公害車導入率

	総台数	低排出ガス車	導入率
2001年度	243台	68台	28.0%
2002年度	243台	78台	32.1%
2003年度	242台	115台	47.5%

※国土交通省認定の低排出ガス自動車

環境情報の共有

社員をはじめ関係会社などに向けてさまざまなメディアを通じて環境情報を発信し、啓発活動を展開しています。

特にイントラネット上では、社内ニュース「デイリーあい」の中で環境に関する記事を取り上げているほか、2003年度は環境のためのページ「環境クリック」を新たに開設しました。また、eラーニングシステムによる環境学習も実施し、ISO14001やシックハウス関連のコンテンツを提供しています。



環境のための社内版ホームページ「環境クリック」



イトーキ環境方針カード



デイリーあい「環境ニュース」

企業として地球、ひと、社会とのよりよい関係を築いていくために、イトーキはさまざまなコミュニケーション活動を行っています。

環境への配慮がひと目でわかる環境ラベルの表示

どのような面で環境に配慮された製品か、お客様がひと目でわかるように情報を提供するのが環境ラベルです。

当社製品の総合カタログでは、さまざまな環境ラベルの表示を行っています。
※数字は2003年11月現在

グリーン購入法適合品 (社)日本オフィス家具協会	GPNデータブック掲載品 グリーン購入ネットワーク(GPN)	エコマーク認定品 (財)日本環境協会
カタログ掲載の特定調達品目(機器類、文具類など)のうち 87.5%	オフィス家具、文具など 116シリーズ	部品の交換修理の容易な事務用および学校用椅子など 26シリーズ

イトーキの環境ピクト

素材選定、設計段階、製造段階、物流段階、使用段階の5つの段階でどのような環境配慮を行っているかを、わかりやすくピクトで表示しています。



企業コンセプト「Ud&Eco style」を目指して

●イベントへの出展、エコ商品の展示

全国で開催されるイベントにアグリファニチャー、間伐材家具などを出展しています。また、イトーキの東京ショールーム、大阪ギャラリーではUd&Ecoコーナーを設け、これらの製品を実際にご覧いただけるようになっています。



2003年度は、農産廃棄物を再利用した素材を使った新商品「モノアテーブル」をはじめ、間伐材を使用したテーブル、チェアなどを中心に展示



●広報活動

雑誌や新聞などに、Ud&Eco styleをテーマとした企業広告を掲載しています。

●ユニバーサルデザインの普及活動

大学、自治体などからの依頼を受け、さまざまな方々を対象にユニバーサルデザインに関する講演を行っています。また、原稿執筆やマスコミへの協力を通じてユニバーサルデザインの普及啓発を行っています。

●京都環境フェスティバル 2003

開催日: 12月6日(土)、7日(日)
会場: 京都府総合見本市会館(パルスプラザ)
主催: 京都府・京と地球の共生府民会議・(財)自治総合センター
来場者数: 約26,000人

●びわ湖環境ビジネスメッセ 2003

開催日: 11月5日(水)~7日(金)
会場: 滋賀県立長浜ドーム
主催: 滋賀県環境ビジネスメッセ実行委員会
来場者数: 37,857人

●エコプロダクツ2003

開催日: 12月11日(木)~13日(土)
会場: 東京ビッグサイト
主催: (社)産業管理協会、日本経済新聞社
来場者数: 114,060人

2003年度のユニバーサルデザイン講演

- 高知女子大学
- 大阪府立岬高校
- 神奈川県立総合教育センター
- 全国市長会
- 三重県紀南県民局
- JFMA(日本ファシリティマネジメント協会)
- 神戸ファッション美術館



大阪ギャラリー「Ud&Ecoコーナー」とUd&Eco styleを伝えるリーフレット



環境関連の雑誌等に掲載した企業広告

メディアによる情報公開

イトーキの社会・環境活動をご理解いただくために、積極的に情報公開を行っています。

主な関連公表資料

【一般向け】

- 会社案内
- 総合カタログ
- Ud&Eco style誌

【株主向け】

- 有価証券報告書
- 事業報告書・IRレポート(年2回)



『Ud&Eco style』誌

環境関連団体

社会全体で環境保全活動に取り組むために、当社はさまざまな環境関連団体に積極的に参加しています。

現在参加している団体

- グリーン購入ネットワーク(GPN)
- 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)
- 財団法人クリーン・ジャパン・センター
- 財団法人生産技術研究奨励会

信頼される企業であるために

●企業倫理、コンプライアンス

イトーキでは、2001年度より「イトーキ社員の行動規範」を策定し、社員が遵守すべき法令や企業倫理を明確化して、お客様の信頼に応える体制を整備しています。同年、コンプライアンス推進室を設置しました。

携帯用「イトーキコンプライアンス・プログラム」は、全従業員へ配布



●安全衛生について

労働安全衛生法にもとづき、安全衛生管理体制を整え、従業員の安全と健康の確保と職場改善を推進しています。2003年度の労働災害は6件あり、内容は事務所・現場での骨折2件、切り傷4件などでした。

●取扱説明書について

イトーキの製品の取扱説明書は、100%再生紙やSoy inkの使用などにより、環境に負荷を与えない「紙製の印刷物」として、エコマークに認定されています。



●製品の品質について

1998年度よりISO9001を認証取得し、下記品質方針のもと、製品の品質保証に加えて顧客満足の上を目指して活動を推進しています。

品質方針

お客様に満足と新しい感動を与える高品質の製品を提供する。

お客様相談センターでは、弊社製品の仕様や修理のお問い合わせ、クレームを受け付けています。

☎ 0120-164-177

土日祝日を除く午前9時から午後6時まで

「KZチェア」リコールについて

2004年3月、弊社製品「KZチェア」に一部不具合が発見されました。「KZチェア」は発売後相当の年数を経ている、オフィスチェアの法定耐用年数を超えている機種もありましたが、これまで執務中に分離す

ような事例は起きていませんでした。しかし、弊社としてはお客様の安全を第一に考え、直ちに関係機関に報告するとともに、新聞等を通じて公表し、該当期間に製造された「KZチェア」の座受け金具の

部品を交換させていただいております。今後、このようなことがないように再発防止対策を徹底し、一層の品質向上に取り組んで参ります。

●対象製品
確認方法 座面裏に左のスクリーンで表示しています。
製品名 KZチェア
製品記号 KZ740BC-W408
LOT番号 8903010001

●お問合せ先
イトーキカスタマーセンター
フリーダイヤル 0120-164-177
受付時間 9時～18時(土日祝日除く)

2004年3月8日 株式会社イトーキ

イトーキ製「KZチェア」部品交換のお知らせ
平素は、弊社製品に格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、この度イトーキ製オフィス用イス「KZチェア」の座面下の座受け部分に、金属疲労による亀裂が生じることが判明いたしました。つきましては、お客様に安心してご利用いただくため、該当部品を無償で点検、交換させていただきます。対象は1995年3月～1998年5月の間に製造したものです。
ご使用中のお客様には、大変ご迷惑をおかけいたしますが、左記お問合せ先までご連絡いただきますようお願い申し上げます。
お客様には、深くお詫言申し上げるとともに、今後再発防止と一層の品質向上に努めますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2004年3月8日付で新聞に掲載した「KZチェア」リコール社告